



鶴見区民会議は、誰でも自由に参加できる話し合いの場です。話し合いから、うるおいがあり、心安らぎ、また活力のある地域社会づくりのアイデアが生まれます。

編集発行 鶴見区民会議運営委員会
承認 鶴見区 第1号

安全は、あるものではなく、つくるもの

平成26年11月13日（水）鶴見公会堂で、鶴見区民会議を開催し、「安全は、あるものではなく、つくるもの」をテーマに、防犯について地域でできることを、参加者の皆さんと考え、話し合いました。

★講演会「ご近所力アップの秘訣」講師：黒川 敬（くろかわ たかし）氏

NHKの元人気番組「難問解決！ご近所の底力」のチーフディレクターを務めた黒川敬氏（現NHKプラネット中部支社制作事業部長）に講演していただきました。

黒川氏は昨年引き続き2度目の登壇であり、同番組の映像や参加者とのやり取りを交えた和やかな講演会になりました。

地域の活動が行き詰まったときは、「うまくやろう」という意識は捨て、地域の中で誰か1人からだけでも感謝されれば良いという原点に立ち返りましょう！

難問を解決するための3つのキーワードは「ピンチはチャンス」「全員賛成は止めよう」「人材は身近にいる」です。

「誰かがやってくれる」ではなく、「自分でやる」という意識を持つことが大切。「昨年から区民会議にお招きいただいているが、鶴見は、住民が粘り強く自分たちで考えることができる街ですから、地域活動が成功する確率が高いと思います。これからも応援しています！」



★第1分科会「だまされないで！振り込め詐欺」

＜こんな意見がありました＞

- ◇詐欺にあうのは、「騙されない自信がある、自己判断ができる人」
- ◇コミュニケーションを密にすることが大切
- ◇地域の支援は防犯の大きな力になる

参加された皆様に振り込め詐欺の電話を受けた経験を紹介していただきました。御主人の会社名、証券会社、息子の名を名乗る等、様々な事例が報告され、特殊詐欺の手口が増えているとの話がありました。

詐欺にあう要因として、「孫や子供に頼られると嬉しい、役に立ちたい」「声だけの顔の見えない相手の電話に弱い」「騙されない自信があり、自己判断できている」との意見がありました。

その後防止対策として、「ナンバーディスプレイや留守番電話機能の活用」「ATMの取り扱い限度額の設定」「家族間のコミュニケーションを密にし、合言葉を決めておくこと」等の意見交換がされました。

また、地域での取組として、浜町一丁目自治会では、詐欺被害に備えるため犯罪防止ネットワークを作り、自治会役員を相談員におき、不審な電話を受けたら相談員に連絡して、一人で判断しないよう対策をしていると紹介がありました。被害状況を素早く警察や自治会等関係者に伝達して情報共有を図るのも効果的です。

地域の支援は防犯の大きな力になります。

★第2分科会「地域の防犯～自転車盗・ひったくり」

＜こんな意見がありました＞

◇自転車盗の防止には、鍵を2つかけること、
防犯登録の徹底のほか、発生状況を分析した
対策の実践

◇区民の防犯意識を高める工夫が必要



最初に、自転車盗について話し合われました。発生原因として、自転車が比較的安価で大切に保管されない等が挙げられます。盗難された自転車は、乗り捨てられ、放置自転車となり、自治会として対応に苦慮しているという報告もありました。自転車盗難のほとんどは鍵がかかっていないものと思われ、施錠の徹底し、その上で鍵を2重にかける、防犯登録の徹底など、もっと自転車を大切にすることが必要です。

次に、ひったくりについて経験談等を交えて意見交換が行われました。自転車かごからのひったくりには、防犯ネットが有効であり、イベントや自治会でも配布しています。しかし、防犯ネットを貰ってきても、仕舞い込んだままつけないケースが多く見受けられます。対策については、「配布したその場で取り付ける等、効果的な配布方法を考えるべき」や「自分の財産や安全は、まずは自分自身で守ることが先決で他人に委ねるものではない」等の意見が出ました。

地域で行われている防犯パトロールが、ひったくりや放置自転車の確認等地域の犯罪防止に大いに役立っています。その他、自治体など関係機関への要望として、防犯用具の配布、子ども110番制度の定期的な周知イベントの開催、携帯電話による発生情報の提供等、区民への防犯意識を高める工夫をしてほしいとの意見がありました。



★第3分科会「犯罪から子どもを守る ～通学路の安全、サイバー犯罪」

＜こんな意見がありました＞

◇多くの地域が、地域にあった方法で下校時の
見守りや声掛けを行っている

◇子どもをインターネット上のトラブルから
守るためにはフィルタリング（※）を！

通学時の安全について各自治会で行っている活動を、参加者の皆様に発表していただきました。下校時にパトロールなどを行い、子どもたちの見守りや声かけをしている地域が多く、「当番制」や「毎日行っている」「老人会で実施している」「学区内にある商店街の方々にそれとなく声かけをしてもらっている」等、それぞれの地域に合った方法をとっていました。

また、ご自分でプラカードを作成し、毎日見守りを続けている方もいました。

老人会が主力で実施している地域では、年齢のこともあり、メンバーが増えてこないのが悩み、等の意見もありました。

次に、サイバー犯罪について司会者から説明するとともに意見交換を行いました。現在は子どもでもスマートフォンを持っており、インターネットを多用しているため、多方面に情報が流れ危険です。コミュニケーションアプリ「LINE」を利用したいじめの事例や、「モデル募集」のサイトに応じてわいせつな写真を撮られたりする等のサイトを利用した犯罪もあります。

神奈川県青少年保護育成条例では、青少年（18歳未満）に持たせる携帯電話にはフィルタリングをかけているよう定められています。トラブルから子どもを守るための対策として、ぜひフィルタリングをかけてほしいと司会者から説明がありました。

※有害なサイトの閲覧を制限する機能

★全体会 「講評」 黒川 敬（くろかわ たかし）氏

振り込め詐欺に関しては、どのように冷静な人を間に入れるかがポイントです。自治会の人だけではなく、企業や銀行、郵便局等に町の輪に入ってもらい仕組みをどのように作るかを考えてみてください。

ひったくりに関して言えば、どこでどんな事例が発生しているか、鶴見の特徴を知ることが第一歩。

子どもの安全で言えば、高齢者だけでなく、高校生など、若い世代に地域の活動にどのように参加してもらうか。難しいと思わずに、学園祭等で接触の機会をつくることから始めましょう。

鶴見区の皆さんならできるとあって、難易度の高い意見を言わせていただきました。